

1904年セントルイス万国博覧会における「教育」

渡 辺 かよ子

1. はじめに

本稿は、1904年に開催されたセントルイス万国博覧会における「教育」の諸相とその歴史的意義について考察を加えようとするものである。近代の世界的祝祭としての万博は、人類史的文化的政治的総括とその表出、ナショナリズムとインターナショナリズムの交錯した異文化交流を人々が直接経験することのできる数少ない機会であった。アメリカ教育史においては、都市化と貧困問題への対応、「新」移民に向けられたアメリカ化運動、手工教育の試み等と共に、プラグマティズム運動の胎動が始まっていたこの時期¹、年齢や階層を越えた多くの人々が、万博という非日常的空間での見聞・経験を楽しみ、新たな世界観と歴史観を形成していた。

1851年のロンドン博以来今日まで、各地で大小様々な博覧会が催されてきた。世紀転換期の米国においても1893年から1916年にかけて11の都市で万国博覧会が開催され、そのほとんどが工業化を開始した南西地域の都市であった²。ミシシッピ川に隣接し、当時の人口70万人(全米第4位)、煙草、ビール、靴等の製造業が発展を遂げつつあったセントルイスもそうした都市の一つであった。住民の熱心な運動によって実現したセントルイス万博は、収入が1092万ドル、支出が2452万ドルと、経営的には大失敗の万博となったが、現存する美術館と共に、米国中西部の主要都市セントルイスにおける画期的出来事となった³。

セントルイス万博がその開催基調としたのは、「教育」、すなわち「社会の進歩発展の基礎としての教育」にあった。万博史上初めて、「教育」が独自の展示館を持つようになり、教育部門は展示分類の筆頭に位置づけられた。万博の教育的意義は折に触れて唱導され、教育史上注目すべき催しや試みがなされていた。博覧会全体の頂点に立つ「大学」として位置づけられた万国学術会議の開催、各国の教育に関連する展示が持つ国際競争的側面とその比較教育史的意義、国際親善の象徴としての「子どもの日」、託児施設として完璧な役割を果たしたモデル・プレイグラウンド、今日では社会教育として位置づけられるであろう女性の博覧会運営への関与、ヘレン・ケラー等著名人のなした講演、シカゴ市社会党大会出席のため同地を訪れていた渡欧前の片山潜の動向、等である。

セントルイス万博については、従来の古典的研究文献⁴に加え、近年、万博ないしはそれと同時間開催されたオリンピックに関する研究、博覧会を訪れた人物に関する伝記的研究等、多分野からの多彩な研究が蓄積されてきている。とりわけ最近、セントルイス万博における日本の教育に関して、川口による貴重な研究成果⁵が発表された。本稿はこれらの成果を踏まえ、従来の基本史料に、①セントルイス公立図書館所蔵史料(博覧会協会が発行していた広報誌 *World's Fair Bulletin*、セントルイス万博に関する新聞雑誌記事を集めたスクラップブック)、②日本の

外交史料、③当時の米国の諸雑誌、等も分析の対象に加え、「教育万博」といわれたセントルイス万博全体における「教育」の諸相とその歴史的意義を考察したい。

2. セントルイス万博の概要とその「教育的」構成

1876年のフィラデルフィア博、1893年のシカゴ博、等に次ぐ博覧会であったセントルイス万博は、1904年4月30日から12月1日にかけて開催された。会場はセントルイスの西端のフォレストパーク（1380 エーカー）の西半分とワシントン大学の移転予定のキャンパス（110 エーカー）等、計1200 エーカーという広さで、フィラデルフィア博の4倍、シカゴ博の2倍という「人間の体力と気力の限界を超えた会場」⁶で開かれた史上最大の博覧会であった。会場には1576の建物と全長21キロの鉄道も敷設され、入場者総数は約2000万人、一日の平均入場者数は10万人以上を記録した。万博の入場料は大人が50セント、未成年者が25セントで割引回数券等も発行されていた⁷。万博と平行して、アテネ、パリ大会に続く米国内初の第3回近代オリンピック大会も開催されていた。

セントルイス万博は、1889年1月よりセントルイス市民および職能諸団体から1903年にルイジアナ買収百周年を記念する万国博覧会の開催しようという運動が始まり、1899年に州法に基づくセントルイス万国博覧会協会が設立された。博覧会協会の資本総額は、百年前に米国がフランスに支払ったルイジアナ購入代金と同額の1500万ドル（うち合衆国、セントルイス市より各500万ドルの補助金、博覧会協会株主の出資による500万ドル）であった。1901年には会場が決定され、各国政府への賛同呼びかけが開始され、世界各国へ博覧会協会から勧誘員が派遣されたが、十分な参加を得ることが出来ず、開催への準備が整わなかった。そのため1902年7月には、万博の開催を1904年に延期することが決定され、最終的には44カ国がこの博覧会に参加した⁸。

セントルイス万博への日本政府の対応の経緯については、外交史料⁹に詳しく記されている。日本を始めとするアジア諸国に対する参加要請活動については、米国の報告書に「アジアは無気力と財政不足の状況にあった。万国博覧会一般に対するある種の偏見は、東洋に向けられた万国博覧会使節の代表者の精力的で持続的な訴えによって成功裡に克服された。」¹⁰と総括されているように、1901年に博覧会協会の東洋委員バレット（John Barrett）が熱心に勧誘に訪れていた。日本政府は当初、1903年の第5回内国勧業博覧会開催の予定もあり、民間出品団体への補助金支出のみで対応しようとした。しかしながら、セントルイス万博そのものの開催延期と手島精一らの強い参加要請等により、1902年10月に万博への公式参加が閣議決定された。1903年5月の第18回帝国議会で3年の継続費として80万円の支出を決定し、7月には農商務大臣を総裁とし手島を事務官長とする臨時博覧会事務局が設置された。1903年段階で日本は対露戦（戦費は国家の租税収入の9倍）を想定し、節約を旨としつつも、最大の外交政策的効果を得ようと、シカゴ博やパリ博（1900年）を遥かに上回る陳列面積を獲得した。日露開戦により公式参加を早々に断念したロシア政府の対応とは対照的に、日本政府は結果的に当初予

定されていたロシアのための陳列面積まで獲得し、戦時下、内国勸業博の展示物の転送を含む出品物の搬送や、販売特許料交渉等に努めながら、1904年4月30日の万博の開会式当日には遺漏のない完璧な準備を整え、非西洋国家日本の固有の文化的伝統と科学技術や工芸、教育における近代化ぶりを諸外国にアピールした¹¹。

博覧会の全体計画については、国内外からの交通の便が必ずしもよくない新興都市セントルイスに人々をひきつけようと様々な工夫がなされたが、中でも特筆されるのが「教育的意義」の強調である。参加国や観客に魅力的でわかりやすく、よき「教育」機会となるように、展示分類の工夫がなされ、作品そのものの展示とともにそれが完成に至るまでの過程の展示が精力的になされた。博覧会協会会長フランシス(David R. Francis、セントルイス市長、ミズーリ州知事、連邦内務省長官を歴任)は、これまでの博覧会とは異なるセントルイス万博の意義を次のように述べている。「偉大な万国博覧会から期待される最も豊かで最も普遍的な恩恵は、その教育的道徳的恩恵にあり、それは金銭によって測りえないものである。それらは全般的進歩、家庭生活の輝き、国民生活の光背、人々の知性と度量大なる努力においてのみ、判読できるものである。…これまで世界には、人間の価値と同胞愛に関する高貴な教訓を与える、これほど完璧な学校はなかった。この学校から幾百万の米国人が人間性全般のよりよき評価と、自国の国民についてのより高度で誇らしさに満ちた見識と共に意気高く家路につくことであろう。」¹²同様に博覧会の展示部長スキッフ(Frederick J.V. Skiff)は、万博をそれが含まれている社会全体の「百科事典」として位置づけ¹³、そうした展示全体における整合性の主軸を「人類学」に求めていた。

展示全体については、16の区部門(Department)に分類され、それらは順に、教育、美術、心芸、工業、機械、電気、通運、農業、園芸、林業、採鉱及冶金、漁業及狩猟、人類学、経済、体育、それに家畜となっていた。16の区部門は、さらに144部門(group)、807類(class)に細分されている。こうした展示の分類と配列順序においても、「教育を1904年の万国博覧会の基調とする」という趣旨が生かされ、「人類の社会生活を成立させる」基本となっている教育が筆頭におかれていた。

またこれらの展示とならんで、各種の会議も開催されていた。1889年のパリ万博以来、万博に際して各種の会議が開催されるのは常態化していたが、セントルイス万博においては、従来の多種の会議がそれぞればらばらに開催されるのではなく、これらの会議全体を統括する当時の全学問分野の指導的学者が一同に会して諸学問の統合を求める、万国学術会議(Congress of Arts and Science)が開催されていた。この会議は一般市民に公開され、万博という「学校」の冠たる「大学」に喩えられた¹⁴。

教育部門ならびに会議部門の統括に着任したのは、他の部門の主要スタッフと同様、それまでの万博で輝かしい経歴を有していたロジャーズ(Howard J. Rogers)である。1861年ニューヨーク州生まれ、ウィリアム・カレッジを卒業したロジャーズは、地元アカデミーでの教育経験をもつニューヨーク州弁護士会に所属する人物であり、1893年のシカゴ万博のニューヨーク州管理委員、同州の教育部門の展示を監督した。この展示面積は教育部門最大の11,000平方

フィートを誇り、シカゴ万博における最も優れた芸術的展示として絶賛され、70もの賞を受けた。以後、ニューヨーク州務委員会書記代行、ニューヨーク州副教育長を経て、ロジャーズは1900年にはNEA (National Education Association) やニューヨーク州知事や上院議員、主要大学長の全会一致の推薦を受け、パリ万博における米国の教育・社会経済部門の責任者に抜擢され、その功績によりフランス大統領から名誉勲章メダルと貴族の称号を受けた。パリ博に引き続き、セントルイス万博においてもロジャーズはNEAの万博委員の全会一致による推薦を受け、全展示分類の筆頭部門となった教育部門の統括にあたった¹⁵。

教育部門の充実を強力に支援したのが、上記のロジャーズの推薦にも見られるようにNEAであった。1901年段階から万博当局は、NEAに対して教育展示の顧問となる委員の推薦依頼と、各州および市の教育当局がその代表として準備にあたるようにとの要請を行っていた。こうした要請に応じ、NEAは連邦教育長官ハリス (William T. Harris) を議長とする20人の委員を任命し、万博での教育部門の展示の充実に協力した。また全米から5万人の教師の参加が見込まれる年次総会をセントルイスに誘致しようとする万博協会の強い要請に応じ、NEAの第43回年次総会は、6月27日から7月1日にかけて同地で開催されている。ここでは通常の会議構成に、万博での教育展示に関する特別部会が組み込まれ、各分科会でも外国からのゲスト・スピーカーによる自国の教育の紹介や外国の教育制度から具体的に何を学ぶべきかといった議論がさかんになされていた¹⁶。

万博における教育展示について見ると、展示分類第一区教育部門は、第一部第1類から第八部第26類まで、次のように分類されていた。第1部：初等教育（幼稚園、小学校、教育養成及検定、補習学校）、第2部：中等教育（高等学校及中学校、教員講習及検定）、第3部：高等教育（専門学校及大学、理科・工業・工科学校、職業学校、図書館、博物館）、第4部：芸術学校（美術学校、音楽学校）、第5部：農業教育（農業学校）、第6部：商工業教育（商工学校、米国原住民教育、黒人教育）、第7部：障害者教育（盲学校、聾学校、精神発達障害教育）、第8部：特別教育法（夏季学校、通俗教育・通信教育、科学会、教科書、学校器具）。

また、史上初めて教育館（正式名称：Palace of Education and Social Economy、通称 Palace of Education）が、独立した展示館として設立された。教育館は万博会場のほぼ中央に位置し、40万ドルの工費をかけて地元セントルイスの会社によって建設された。北面が750フィート、南面が450フィート、東西両面が525フィート、建物全体で29万平方フィート、土地面積にして約7エーカーの巨大な建物であった。建物の西入り口には、ホーレス・マンの像、北入り口にはペスタロッチの像が建てられた。教育館では、それぞれの国や州が、それぞれの分類に応じて、図や写真、挿絵、説明冊子、生徒の作文や絵、工作作品等の展示で競い合い、演奏や合唱による公演参加と共に、地元セントルイスの学校を中心とする公開授業も連日なされていた。盲学校、聾学校が行った授業のデモンストレーションはとりわけ多くの観客の関心をひいた¹⁷。

こうした万国博覧会の開催に際して、学校が果たした役割はきわめて大きい。上記のような生徒の作文や作品の展示、また演奏や合唱、模擬授業への参加に加え、学校は万博の広報機関としての役割も果たした。例えば、万博協会広報部は、ルイジアナ購入に関する歴史的説明と

万博の説明が付いた幾百万の地図を学校に送り、これらは学校での授業教材に供されると共に、各地の公立学校を通じて地域住民に配布された¹⁸。万博開催前から存在した、万博に子どもを連れて行ってやりたくてもそれが出来ない保護者に代わって学年末のピクニックや卒業式を万博会場で開催し入場料割引を行ってはどうかという提案は¹⁹、多種の方途で実現された。万博の「教育」効果への期待は、ニューヨークの学生の万博見聞旅費のために寄せられた5000ドルの匿名の寄付²⁰、学校やカレッジでの万博クラブの結成²¹等、学校という制度を通じて実現されていた。

3. 万博における「教育的」展示と催し

上記のように「教育」を基調とする万博において、初めて、教育が独立した筆頭部門として、独自の展示館をもつようになり、こうして新たに創出された教育部門には、米国内の34州と統治地域に4都市が加わり、25の外国が参加した。このような万博の展示や催しがもたらす教育的意義は、ナショナリズムの高揚を背景とする「比較」と「競争」にあった。

このことは、教育部門の統括に当たったロジャーズが1903年12月に語った教育展示に関する抱負に明確に示されている。「簡潔に言えば、教育の展示の価値は、比較の機会という点にある。管理方法、教育方法、学校やカレッジの設備、学習指導要領は、それらの建設の基礎となっている理論の例示、その実施に伴う結果と共に、密接に関係して、地球上のあらゆる地域で学徒の探求に供されている。…二十世紀は商工業の優越を求める国家間の競争の時代として特筆されるであろう。権益の衝突のために時には軍事力に訴えられることもあろうが、勝利し、世界の貿易を統制するのは、効率の観点から未来の市民を訓練する国家であろう。より高度な効率を確立するかどうか成功の試金石となろう。自国民に観察の幅、緊急事態への対応能力、実行力を付与する教育制度を持つ国家が、教育界および商業界において卓越した地位を占めるであろう。この問題の重要性とそれが評価される鋭敏さが、セントルイス万博の教育展示においてすべての国家に感知される関心への鍵であり、展示される諸制度を詳細に比較検討することの価値なのである。教育部門が科学界および商業界のこの主要問題に発揮するかもしれない影響力こそ、そのために費やされる経費の正当な根拠なのである。」²²

ではこの万博でどのように各国、各地域の教育は「比較」されたのであろうか。教育関係の展示において賞賛的になったのはドイツの教育であり、学術水準そのものの高さ、教育事情の展示の巧みさを含め、質量共に他国を圧倒していた。とりわけ「哲学と古典学の故郷」ドイツ大学が近代科学の成果を観客にもわかりやすく見事に展示し、その科学性、教育性、美が称えられた。観客の注目を浴びたのは、レントゲン写真や外科手術用具、細菌学を始めとする最新の科学実験器具とその教育的活用である。教育に関しては、制度説明や統計図表に加え、教科書や学習指導要領等も展示され、包括的で詳細な展示がなされた。また生徒の作文や作品なども、優れた水準のものばかりでなく、中位、下位の水準のものも同時に展示され、それが訪れる観客にドイツの教育の実態を偏りなく伝え、多くの有益な示唆を与えた。その一方で、教

師の教育様式については、バゼドーやフレーベルの教育思想や実践もありながら、全般としては厳格な性格が克服されていない様子も看取されていた²³。

ドイツ以外のヨーロッパ諸国の教育展示では、イギリスが教育全般に関する丁寧な展示を行わずまずの評価を得ていたが、フランスの展示では、教育を「社会学的」事象との関連で展示しようとしたせいも、教育とは直接的関係のない展示が多く見られ、それが展示全体の整合性を不十分なものとして、観客に雑然とした印象をあたえた。また、各展示に関する説明が要領を得ず、不評が目立った。米国にとって示唆が多い展示として好評であったのが75年間の平和にあって物質的のみならず知的にも道徳的にも羨ましいような継続的發展を遂げているベルギーの展示であった。地域共同体によって統制されている義務初等教育、憲法によって保障された教員の安定した地位と抗議権、恵まれた俸給と加俸、年金制度、政府ならびに郡による監督制度、学校教育の成果としての禁酒誓約者のグラフ表示などが、特に教育行政の関係者にとって魅力的な展示内容となっていた。また、スウェーデンの展示では、実際の学校生活の様子をそのまま表した教室、調理室、スロイドや金工の教室、成人教育施設が高い評価を得ていた²⁴。

日本の教育ならびに教育制度の発達については、ドイツに次いで絶賛を受けるとともに度々言及された。短期間になした近代化の成果としての就学率の高さ、応用科学に重点をおいた帝国大学の学問水準の高さが賞賛された²⁵。それは、この博覧会で初めて参加した中国との対比によってより際立っていた。東洋の伝統を重んじようとする中国と、いち早く西洋化に向かった日本との対比であり²⁶、この点についてロジャーズは次のように述べている。「中国コミッションの展示は二つの事実から興味深い。それは中国が史上初めて行った展示であり、最古の記録が残る文明として大いなる歴史的価値があること、そして第二に、旧来の教育と港町の外国の学校によって導入された教育の興味ある比較である。将来性の見込まれる分野と比較して後者の進歩はほとんど見られず、西洋の方法を採用した日本の優位との対比が際立っている。」²⁷

上記のような国家や地域の「比較」という視角とは別に、セントルイス万博には、多くの興味深い教育に関する側面が見られた。その第一が、託児施設として完璧な機能を果たしたプレイグラウンドである。米国におけるプレイグラウンドは19世紀の都市化の進行によって都市生活者のための戸外でのレクリエーション施設の必要から、1820年代以後、屋外ギムナジウムの建設、教会堂や保育施設での砂場の設置に代表されるレクリエーション運動としてドイツの影響を受けながら発展していた。世紀転換期にはシカゴ、ニューヨーク等でさかんになり、そこでの指導者の専門化が進展していた²⁸。1907年に米国プレイグラウンド協会の結成にいたるこの時期、セントルイス万博でのモデル・プレイグラウンドは、素人による慈善活動と専門家による保育活動との相克という管理財政問題²⁹を含みながらも、託児施設として究めて高い評価を得ていた。

博覧会会場の東端に設置されたプレイグラウンドには、ブランコ、平均台、幼児のためのハンモックや砂場が設けられ、子どものための安価な昼食(10¢)が用意された。6月のプレイ

グラウンドの公式開所日には世界の乳幼児の集いが開催され³⁰、以後、毎月2000人以上、9月はじめまでにあらゆる年齢のあらゆる国籍の11,600人の子どもたちがハーシュフィールド(Ruth A. Hirshfield)を指導者とするスタッフの保護を受けた。託児料金は12時間25セントで、誘拐事故防止のため預けられた子どもたちの右肩に番号札を付け、保護者の半券と照合するようにした。病気になったり怪我をした者は全くなく、440人の迷子もプレイグラウンドで、保護者が見つかるまで十全に保護された³¹。12月に博覧会が終了するまでに、プレイグラウンドに預けられた子どもの総数は、生後2週間から1歳未満が2405人、1歳から2歳未満が1567人、2歳から5歳未満が1907人、5歳から14歳1470人、総計7247人であった。無料でプレイグラウンドを利用した子どもの総数は20911人で、一日平均3000人にのぼり、9月以降ますます利用者が増えている。これらの子どもたちの保護は、12人の看護婦を含む22人のスタッフによってなされた³²。

会期中に幾度か設けられた子どもの日には、子どもの入場料が無料となり、数千人の子どもたちがプレイグラウンドに出かけた。民族衣装を身に着けた世界の22か国の子どもたちが行進を行い、人種や国籍、階層、言語の違いを越えて集う盛大な会食が催された。バベルの塔さながらの子どもたちの交流の様子は国際親善の象徴となっていた³³。こうした子どもが大挙して博覧会を訪れる子どもの日の開催については、州政府機関は芝生や花壇が踏み荒らされ、ポーチの家具等の破損に遺憾の意を表明していたが、博覧会協会はそのような非難を無視して、以後の子どもの日を開催した³⁴。

博覧会協会にとっては、金時計やダイヤモンド、傘、帽子等をなくしたとって手間をかける大人に比べると子どもは面倒ではなかったが、子どもは自分自身をなくして迷子になってしまうという問題があった。「昼食を入れた籠や箱を手にもって、眼前にぽっかり口をあけている偉大なる白亜の都市を前に、子どもたちはみんな8時の開門時間から生き生きと熱心であった。しかし6時近くになると、子どもたちの間には、パイク(遊興所)の魅力にさえ、興味の喪失が見受けられた。彼らは、ある場合には涙声で、その日一日、万博を十分見たと心の内を明かすが、親ないしは保護者はこうした要求を聞こうとせず、子どもは勝手に振る舞い、放って置かれてしまっている。」夕刻6時から9時までの間、プレイグラウンドの事務所前には迷子を探し求める保護者達の長い列ができていた³⁵。

この万博には、6月にラドクリフ・カレッジを卒業したばかりのヘレン・ケラー(Helen Keller)が、その師アン・サリバン(Anne Sullivan)と共に招待され、ヘレン・ケラーの日とされた10月18日には、数千の聴衆の前に講演が行われた。1890年来、話す訓練を始めていたケラーの言葉は、サリバンによって繰り返され、さらに博覧会会長フランシスによって繰り返された。「感覚ではなく魂が、命を生きるに値するものとする」というケラーのスピーチは聴衆に大きな感動を与え、新聞にもその全文が掲載された。ケラーは、フィリピン居留地を訪れ、イゴロット族のトーテムポールの頭蓋骨に触れ、外国のダンスに積極的な質問をし、またパイクでは駱駝に乗るのを楽しんだ³⁶。

また、博覧会における教育および人間観に関する一側面として特筆されるのが、ニューヨー

ク市およびミズーリ州の展示館のパネルに描かれた2歳の美少年のモデルである。彼は、子どもの甘美な無邪気さの象徴として、万博以外にも東部諸都市の主要劇場を飾った絵画のモデルとして広範な人気を集めていた³⁷。

4. 万博と「教育」

当初から博覧会協会によって繰り返し強調されていた万博の教育的意義は、多くの新聞や雑誌記事によって受け入れられ、また種々の展示がもたらす「比較」を通じた「教育」効果は確かにあった。こうした「比較」がもたらす「教育」ないしは認識形成は、例えば、万博が創出した「フジヤマ」「ゲイシャ」に代表される日本観の形成等に典型的にも見られるが、こうした「比較」が前提にする「差異」の認識そのものは、万博という世界的祝祭という文脈の政治性を多分に持っていた。「未開人」の展示や障害者教育のデモンストレーションが人々にもたらした「差異」の認識は、政治的「処方」が伴われていることは事実であるが³⁸、こうした政治性は万博のもたらす「教育」をめぐる議論にも浸透していた。セントルイス公立図書館に所蔵される当時のセントルイス万博に関する新聞雑誌記事のスクラップブックや当時の雑誌には、万博の教育的意義に関する多数の言及と、各国ないしは米国各州等の教育的展示から得られた示唆、万博がもたらした「教育」の足跡が残されている。

まず、万博の教育的意義については、コロンビア大学学長バトラー (Nicholas M. Butler) が、次のように述べてその教育的意義を力説している。「大規模な国際博覧会は偉大なる教育的影響力をもっている。想像力がかきたてられ、建物、彫刻、庭園によって趣味が洗練されるのみならず、生きた知識が工業、商業、美術工芸、教育の詳細に分類され注意深く配列された展示によって伝えられる。科学の最新の発見と、技術への科学の最新で最高度の驚異的な応用が、理解しやすく効果的に示されている。」バトラーはこうした万博において教育が展示分類の筆頭におかれ独自の教育館が史上初めて設けられた意義を論じ、公開による万国学術会議ならびに各国教育展示の意義を説いた³⁹。

万博の教育的意義に関する最も包括的な議論は、コロラドカレッジ学長スロコム (William F. Slocum) による「教育力としての万国博覧会」に見られる。過去の万博の例も引きながら、万博が十分な教育を受けた経験のない人々にも、本や単なる旅行が伝達できないような新たな見聞と知識、経験を与え、それがさらに彼らの隣人に経験談として広められるという。「人々に事物を見させること」「製作を学ぶ最良の方法は良くなされた作品を見ることである」といわれるように、万博は本質的諸点において「未来の大学」の方法と同様に完璧であり、それは教科書の代わりに写真や生きた事物を交換し、これらが実験室での作業に助けられながら、指導がなされ個人の発達が獲得される手段となるであろうという。万博は現時点までの教育に係る事物の進歩の到達点を示し、それが提示する観点が来るべき時代の教育事業の希望に満ちた概観を示しているという⁴⁰。同様に、ニュージャージーの師範学校校長スミス (Frank W. Smith) も、大多数の人々に特別に訴えかける教育的展示は教育館ではなく、教育の成果としての博覧

会全体にあると述べている⁴¹。

当時の著名なジャーナリストもセントルイス万博がもたらす教育の重要性を論じた。例えば、ページ (Walter H. Page) は「万博での最も偉大な展示：それはアメリカ人民がすべて一斉に学校に行き、すべてが互いから学ぶことである」と題された論説で、ユーモア溢れる筆致で万博会場における教育的意義を論じた⁴²。また、セントルイス万博に関する連載記事を執筆しているカーチス (William E. Curtis) も、「博覧会は広大な学校である」と題した論説記事で、世界各地の人間の英知と努力の結果としての建物や展示に供されるすべての学問分野の成果、あらゆる思想の系譜、人間のあらゆる分野での活躍、人間の大望の目的が示されている万博においては、何人も何かを学ぶことなく会場を歩くことは出来ないとし、これらの一般公衆への教育的価値は計り知れないとしている⁴³。

こうした万博全般の教育的意義に加え、万博における教育関係の展示は、「比較」という視点から訪問者に明確な政治的示唆を与えていた。例えばニューヨーク市副視学官のエドソン (Andrew W. Edson) は、次のように教育展示の成果を総括している。「あらゆる観点から、セントルイスでの教育展示はこれまでなされてきたどの博覧会よりもはるかに進歩していた。それは近年の教育方法とその成果における進歩を明確に示した。それは我々の努力における欠陥を暴き、外国がどの点で優れているのかを指し示し、また同時に我々のうちに、全体としては我々の学校はよく管理され、我々の教育の指導者は健全で信頼できるという自信を吹き込んでくれた。…人はいかに優れた業績をなしても、それまでなした何かよりもある線においてよい何かを見出した。そのような展示は達成の試金石であり、試金石はいつもその人の見解を明らかにする。」⁴⁴

またマサチューセッツ州の教育展示部長を務めたゲイ (George E. Gay) も、次のように述べて教師の万博での学びの意義を論じている。「教師は教育展示から何を学ぶであろうか。まず、彼は世界の今日の生活における教育の大いなる重要性を学ぶであろう。彼は以前にはないほど、世界の大きいなる教育的関心を導いている資金の額、人の数、頭脳と心の性向に感銘を受けるであろう。7エーカーもの展示は、他のどのような方法もそれを示すのが不可能な様式でそれらを示し、彼はあらゆる国、あらゆる地方において青年を成人男女に向けて準備をしている人からなる高貴な大軍に属しているという事実を誇りに思うことであろう。彼はまた、他が別の方法で、そしてしばしば自らの方法によるよりも良い方法で行っていることを学ぶであろう。…しかしながら、教育展示の研究からの主要な結果は、直接的なものではない。より賢明な知識、新しい見解、態度における変化は確かに直接的で重要である。しかし新しい知識は未来の知恵の有益な種子であり、新しい見解は真なる見解、態度における変化はすべての未来の進歩に影響を与える方向における変化なのである。」⁴⁵

セントルイス万博は教育に関する新たな「世界観」を提示し、とりわけ米国人に自国の教育に対する深刻な反省をもたらししていた。こうした反省を最も明快に論じているのが、万博に関する多くの連載記事を書いているジャーナリスト、ウォーカー (John B. Walker) である。彼は、万博での米国での南部諸州の教育への関心の低さ、識字率 (ルイジアナ州が40%) や就学率、

校舎などの教育施設、生徒一人当りの教育予算（アラバマ州で57¢、アーカンソー州では\$1.18に対し、コロラド州では\$7.60、ニューヨーク州では\$5.70）等に顕在化している米国各州の間での教育格差、合衆国全体では軍事費の40億ドルに対して教育費は2億3500万ドルにしすぎない状況を嘆いている。ドイツ、ベルギー、日本の教育の美点を紹介しつつ、彼は万博の印象を次の6点に総括している。①教育が世界のあらゆる困難な問題を解決しつつあること。人間の知識が進展するにつれ、彼らは物事のすべての様式、とりわけ統治に関する様式について合理的判断を下すであろう。②科学技術教育のための公的施設に最も急速な増大を見せたドイツのような国家が、工業面での成功に向けて最大の進歩を示している。③いわゆる古典的教育は、イギリスやスペインで継承保持されてはいるが、その最も強力な国家においてさえ背景に追いやられる傾向がある。④米国の中西部において急速に建設されつつある州機関の偉大なる体制は、すでにその学生数において私立大学を凌いでいるが、そこに米国人民のための科学的教育指導の急速な拡張に向けた大いなる希望がある。⑤連邦政府の援助が、解決されねばならない根本的問題を持つ南部諸州のための大規模な保障措置のために絶対的且即時的に必要である。工業ならびに道徳的訓練がこの国のその最も困難な問題の一つの解決を与えることができるであろうが、それ以外にはないだろう。⑥家庭内でなされている男女の教育が子どもの教育と同様に重要である。伝記によって例示された興味を引く夕刻講義、よく工夫された通信指導の体制が、国のあらゆる学習意欲のある市民の手に届くように整備されなければならない⁴⁶。

またウォーカーは、「博覧会における外国：彼らが米国民に教えていること」と題された論説では、特にドイツと日本の教育の展示から衝撃に基づいて、自国の教育に関する示唆を述べている。「最初は驚き、それから深い驚異、それから屈辱。これが、正直な、私が全く予想していなかった、あらゆる場所でドイツと日本が優越性を示している万博で、時の経過と共に展開していった私の感情を描写するものである。」という冒頭に続き、彼は日本（92%）とドイツ（94%以上）の義務制度による就学率の高さ、日本の文部省の強い行政指導力に比較した米国連邦教育局、明治維新期の自らの横浜での見聞以後の海運業の発展、日本における郵便制度を利用した巡回図書指導、ドイツと日本の屋内装飾、イギリスの過去の栄光と現代の衰退等について論じた。彼は、米英両国が知的発展について目を覚まさなければならないと述べ、議会はこの万博が政府と産業界にもたらした教訓を報告する予算措置と大統領任命による委員会を設置すべきであるとしている⁴⁷。

5. おわりに

以上、セントルイス万博における「教育」の諸相を検討してきた。「教育」が展示分類の筆頭におかれ、独立した教育館が史上初めて設けられ、「教育」が基調とされたこの万博は、その開催意義そのものが「教育」に焦点づけられていた。ロジャーズをはじめとする経験豊かな実務者によって構想実現された万博での見聞は、それまでの自らの経験との「比較」を通じた新たな経験として、それに関わったすべての人々に新しい世界観を提示する「教育的」効果を

もたらしていた。

こうした個人にもたらされた新たな世界観をより大局的な視点から概観すると、科学技術および教育において後発近代国家ドイツが圧倒的な優位を誇っていた当時、とりわけ日本の教育における西洋化は中国との対比においてその違いを際立たせていた。そして、こうした万博における他国との「比較」による「差異」の認識は、自国の教育に対する新しい認識と反省を形成していた。人々が直接交流する稀有な異文化交流としての万国博覧会は、そうした「差異」の認識形成の持つ政治性と共に、それぞれの時代の教育事象を世界史的視点から多角的に分析することを可能にする貴重な機会となっている。

- 1 Cremin, L. A., *The Transformation of the School: Progressivism in American Education 1876-1957*, Vintage Books, New York, 1964, 等を参照。
- 2 Rydell, R. W., *All the World's a Fair*, University of Chicago Press, Chicago, 1984.
- 3 Francis, D., *The Universal Exposition of 1904*, St. Louis Louisiana Purchase Exposition Company, 1913. Louisiana Purchase Exposition Company, *Official Guide to the Louisiana Purchase Exposition*, St. Louis, 1904. *Official Catalogue of Exhibitors, Universal Exposition St. Louis, USA 1904*. Halstead, M., *Pictorial History of the Louisiana Purchase and the World's Fair at St. Louis*, 1904. 農商務省「聖路易万国博覧会本邦参同事業報告」第一編および第二編、1905年。
- 4 吉田光邦編『万国博覧会の研究』思文閣出版1986年。吉見俊哉『博覧会の政治学』中央公論社1992年。他。
- 5 川口仁志「セントルイス万国博覧会における日本の教育」、日本比較教育学会第37回大会(京都大学)2001年6月23日、発表用資料。
- 6 平野繁臣『国際博覧会歴史事典』内山工房1999年52頁。
- 7 労働者の時給が概ね25セント、年収500ドル前後であった当時、庶民も手の届く入場料であったといえる。合衆国商務省編『アメリカ歴史統計』第1巻原書房1986年。
- 8 Williams, S., The Birth and Growth of the Louisiana Purchase Exposition: A Chronological Review of the World's Fair, St. Louis, U.S.A. From Organization to Opening Day, *World's Fair Bulletin*, 5-7, May 1904, pp. 4-15.
- 9 「北米合衆国【ミゾラ】州【セント、ルイス】市ニ於テ万国博覧会開設一件」、外務省外交史料館(3-15-2-44)。
- 10 Francis, D., *The Universal Exposition of 1904*, op. cit., p.72.
- 11 農商務省、前掲書。
- 12 Francis, D., "Benefits of the Exposition," Louisiana Purchase Exposition Company, *Official Guide to the Louisiana Purchase Exposition*, op. cit., 1904, pp. 7-8.
- 13 Francis, D., *The Universal Exposition of 1904*, op. cit., pp.311-312.
- 14 筆者稿「1904年セントルイス万国学術会議に関する考察—学問の専門分化への『教育的』対応の視角から—」『名古屋大学教育学部紀要』(教育学科)第40巻2号1993年度。

- 15 Rogers, H.W., Educational Exhibit, *World's Fair Bulletin*, 5-2, Dec. 1903, p.4の編集者による解説。
- 16 National Educational Association, *Journal of Proceedings and Addresses of the Forty-third Annual Meeting Held at St. Louis, Missouri in Connection with the Louisiana Purchase Exposition, June 27-July 1, 1904*. 日本からは松村茂助(文部省参事官)が「日本の展示と日本の教育との関係」と題した講演を行っている(同 pp.354-360.)
- 17 Scrapbook, vol.7, pp.34-35, St. Louis Public Library.
- 18 Francis, D., *The Universal Exposition of 1904*, op. cit., p.78.
- 19 Scrapbook, vol.2, p.73, St. Louis Public Library.
- 20 Ibid., vol.9, p.26.
- 21 Ibid., vol.9, p.4.
- 22 Rogers, H. J., Educational Exhibit, op. cit., pp.4-6.
- 23 Lang, O.H., Educational Outlook, *Forum*, 36, Oct. 1904, pp.263-265. 他多数。
- 24 Ibid. Smith, A. T., The Educational Exhibit at St. Louis, *Educational Review*, 28, Dec. 1904, pp.444-460. Henrotin, E. M. Secondary Education in Europe and the United States, *Educational Review*, 30, Oct. 1905, pp.231-242.
- 25 Ibid.
- 26 Francis, D., *The Universal Exposition of 1904*, op. cit., p.329.
- 27 Rogers, H. J., The Foreign Educational Exhibits, in National Educational Association, *Journal of Proceedings and Addresses*, op. cit., 1905, p.167.
- 28 Frost, J. L. & Worthan, S. C., The Evolution of American Playgrounds, *Young Children*, July 1988, pp.19-28. Dickason, J. G., *The Development of the Playground Movement in the United States: A Historical Study*, New York University, 1979.
- 29 Scrapbook, vol.7, p.45, St. Louis Public Library.
- 30 Ibid., vol.13, p.25,
- 31 ニューヨークの大学を卒業、1900年にニューヨーク弁護士会に入会。バッファローのパン・アメリカン博で独自の託児施設を開設し、注目を浴びていた。The Model Playgroud, *World's Fair Bulletin*, 5-11, Sep. 1904, p.12.
- 32 Ibid., 6-2, Dec. 1904, p.50.
- 33 Scrapbook, vol.7, p.45, St. Louis Public Library.
- 34 Ibid., vol.13, p.40.
- 35 Ibid., vol.13, p.54.
- 36 Ibid., vol.13, pp.64-65.
- 37 Ibid., vol.7, p.76.
- 38 Trennert, R. A., Selling Indian Education at World's Fairs and Expositions, 1893-1904, *American Indian Quarterly*, Summer 1987. Trent, J. W., Defectives at the World's Fair: Constructing Disability in 1904, *Remedial and Special Education*, 19-4, 1998. 等を参照。
- 39 Butler, N. M, Education at the St. Louis Exposition, *Review of Review's*, 30, Sep. 1904, pp.323-326.
- 40 Slocum, W. F., The World's Fair as an Educative Force, *Outlook*, Aug. 6, 1904, pp.793-805.
- 41 Smith, F. W., The Educational Value of a Great Exposition, *Arena*, 37, Jun. 1907, pp.605-610.

- 42 The Greatest Exhibit at the Fair, Scrapbook, vol.2, p.103, St. Louis Public Library.
- 43 Curtis, W. C., Fair is Vast School, Scrapbook, vol.2, p.139, St. Louis Public Library.
- 44 Edson, A. W., School Exhibits at the St. Louis Exposition, *Education*, vol. 25, Feb. 1905, pp.342-343.
- 45 Gay, G. E., Education at the St. Louis Exposition, *Education*, vol. 24, Jan. 1904, pp.298-300.
- 46 Walker, J. B., The Education of the World as Shown in the Exhibits of Many Peoples, *Cosmopolitan*, vol.37, Sep. 1904, pp.497-512.
- 47 Walker, J. B., Foreign Nations at the Fair: What They are Teaching the People of the United States, *Cosmopolitan*, vol.37, Sep. 1904, pp.597-600.